

## 長泥行政区の復興について 関係機関と話し合い続く



いかに復興を進めるか話し合いは今後も続きます

5月14日、村役場で、長泥行政区の今後を話し合う会議が開かれました。行政区からは役員をはじめ住民が出席し、国・県・村との話し合いに臨みました。国は、帰還困難区域については、復興予算を活用して拠点エリアの除染と整備を行う方針で検討しています。住民からは「将来的には拠点以外の除染も行ってほしい」「復興計画についてさらに話し合いたい」など意見が述べられました。今後、長泥行政区では、今回示された内容を住民で話し合い、方針を決めていく予定です。

## 「おかえりなさい」補助金 交付式を行いました

5月1日、村役場で、「おかえりなさい」補助金交付式が行われました。これは、避難先を退去して帰村した世帯に、引っ越し費用として一律20万円を補助するもので、世帯の一部が帰村する場合も対象です。式では菅野村長が、いち早く申請を行った4世帯に補助金を手渡し、「長い避難生活ご苦労様でした。6年間の重みで引っ越しも大変ですね」とねぎらいました。出席した皆さんは「少しぐらい不便でも帰りがかった」「終の棲家は飯館と決めていた」などと話し笑顔を見せていました。



菅野村長が4世帯の一人ひとりに交付を行いました  
補助金の詳細は [問](#) 住民課住民係 ☎0244-42-1618

## 学校等再開整備事業の 安全祈願祭が行われました



発注元として関係者に感謝を伝える菅野村長

幼稚園・保育所の機能を併せ持つ「認定こども園」、一貫教育を行う小・中学校などを整備する「学校等再開整備事業」、スポーツ公園の機能を拡充して整備する「スポーツ公園整備事業」の安全祈願祭が、5月15日に現地で行われました。発注元としてあいさつした菅野村長は、関係者に感謝を伝え、「多様なアプローチで教育内容を充実させ、心の教育にも力を注ぐ。子育て世代への支援も大切にしたい」と、ハード・ソフトの両面で教育環境づくりに最善を尽くすと決意を表明しました。

## 村の元気を渋谷で発信！ 多くの支援に支えられて

村は、5月4日、渋谷公園通フラワーフェスティバル(東京都)に出展し、特産品を販売しました。ブースの一角では、小林将男さん(関沢)が千葉県で育てる牛を使った「までい牛ソーセージ」も焼きながら販売。小林さんと交流する大学生も販売を手伝いました。前日には、渋谷公園通商店街振興組合が、相馬農業高校(南相馬市)の生徒と共に、「までい」の石碑がある同公園通の「福島花壇」にペゴニアを植栽。花の苗を配り、村の花き栽培を応援する募金活動も行っていただきました。



どぶろくや加工食品、手芸品を販売して村をPR

## 交通安全指導隊が 村内での活動を本格化



ハンドプレートを手にする指導隊の皆さん

5月15日、村の交通指導員などで作る「交通安全指導隊」が、交流センター「ふれ愛館」に集まりました。この日はあいにくの雨模様で、「シートベルト！」「速度注意」といったメッセージを手を街頭で安全運転を呼びかける「ハンドプレート作戦」は見送られ、今後の活動についての話し合いが行われました。復興事業が進む村内の交通量は大幅に増加しており、避難指示解除に伴い村民の通行も増えてきています。交通事故防止に一人ひとりが意識を高めていきましょう。

## 総合健診を7年ぶりに 村内会場で実施しました

今年の総合健診は、福島市・伊達市・相馬市・南相馬市といった避難先の会場に加えて、7年ぶりに村内でも実施しました。村内では、5月13日・14日に、いいいて活性化センター「いちばん館」を会場に、総合健診を実施。2日間で、約500人が受診しました。受診者が集中したため、待ち時間は長くなりましたが、久しぶりに再会した人同士の談笑する声が、待ち合いスペースでにぎやかに響いていました。同会場では、希望者の内部被ばく検査も、当日受け付けで実施しました。



総合健診の村内実施を多くの人が利用しました